

令和7年度版 総合計画の進行管理及び課題管理シート（令和6年度の振り返りと令和8年度 of 取組検討）

施策No	231		
施策名	文化芸術活動の推進		
関係課	文化推進課、文化財課		
施策の目的	● 文化芸術に触れる機会を提供し、市民の文化芸術活動の活性化を図ります。 ● 文化財や郷土芸能の活用を促進し、市民の理解を図ります。 ● 文化芸術活動の拠点となる施設を安全で安心して利用できるよう、施設の適切な維持管理に努めます。		

1. 進行管理

（1）指標の実績・考察と目標年度（令和7年度）の目標値達成見込み

	指標	単位	実績基準値	実績値					見込値	目標値	最終年度（R7）の 目標値達成見込	R 6 年度の実績説明・考察 及びR7目標値達成見込判断の理由
			R2	R3	R4	R5	R6		R7	R7		
a	文化活動を行うか、美術館等での講演・展示会などに参加・鑑賞している人の割合	%	39.3	44.2	43.1	47.9	47.4		58.0	58.0	②現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）	アフターコロナの生活が定着してきた中で、文化活動が本格的に再開、イベントが増加傾向にある。
b	市内の文化財、郷土芸能を知っている人の割合（天明鋳物）	%	69.4		72.5	72.9	74.2		77.0	77.0	②現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）	各種PR事業実施や生産用具の国重文指定などにより、メディアでの掲載回数が増加したことなどにより、市民の認知度向上につながっている。
c	施設利用者の満足度の割合	%	84.6	84.9	83.3	86.0	80.3		86.0	87.5	④現在の想定では目標達成が困難	文化会館の利用者が、休館のため、あくとプラザを利用した場合などは、文化会館を利用できないこと自体が満足度を下げた要因の一つと推察される。あくとプラザにおいても、質の高いサービスを提供する。
d												

（2）構成する事務事業の昨年度（令和6年度）の取組結果 ※効果が上がった、下がったの判定は、事業効果を説明する指標のR 5 との比較となります。

① 施策関連区分A（実施計画事業）

【効果が上がった事業】

							事業費（単位：千円）			効果説明
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6	
1	天明鋳物のまちづくり推進事業	天明鋳物を知っている割合	%	72.5	72.9	74.2	548	1,766	5,071	各種PR事業実施や生産用具の国重文指定などにより、メディアでの掲載回数が増加した。

【効果が下がった事業】

							事業費（単位：千円）			効果説明
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6	
3	文化会館リニューアル事業	文化会館利用者数	人	103,573	155,994	0	18,008	10,653	95,584	事業者との協議を実施し、令和8年12月竣工に向け事業を進めている。
		文化会館利用者の満足度	%	86.8	84.1	0				

② 施策関連区分B（実施計画事業以外）

【効果が上がった事業】

							事業費（単位：千円）			効果説明
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6	
9	佐野市に関する美術作品等調査研究事業	展覧会で新しい情報を提示できた作品数	点	40	178	334	28	39	204	各種資料の収集や、美術館所蔵作品及び佐野市ゆかりの美術作品等の調査研究を行い、その研究成果を、展覧会展示に活用した。
		解説パンフレットや図録などの発行回数	回	1	0	1				
14	美術館運営協議会運営事業	意見・助言数	件	5	5	6	46	46	61	美術館運営協議会を開催し、美術館を円滑かつ効果的に運営できるように、委員から貴重な意見や助言を頂いた。

【効果が下がった事業】

							事業費（単位：千円）			効果説明
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6	
4	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会支援事業	事業(フェスティバル、学校訪問)の延べ来場者数、参加者数	人	450	600	250	600	600	600	郷土芸能フェスティバルでは、3団体が出演し延べ200名程度の集客を得ることが出来た。また、学校訪問事業では、令和6年度も各郷土芸能にゆかりのある学校から募集がみられ、認知及び定着がなされてきていると言える。
		事業(フェスティバル、学校訪問)への子どもの参加人数	人	127	85	85				
5	佐野市文化協会支援事業	文化協会の正会員数	人	1,244	1,250	1,161	2,174	2,474	2,474	佐野市文化協会の正会員数は10年以上減少傾向にある。市民文化祭への参加・入場者数はコロナ禍を経て徐々に増加している。
		市民文化祭への参加・入場者数	人	5,317	7,182	6,009				
6	全国大会等出場者支援事業	文化活動に参加・鑑賞している人の割合	%	43.1	47.9	47.4	80	60	35	申請のある部活動の種目が多種にわたるようになり、個人からの申請も見られるようになるなど、文化活動で活躍する児童生徒の増加と事業の認知度の向上が着実に図られていると言える。
7	牧歌舞伎地元公演支援事業	地元公演の来場者数	人	600	-	600	270	0	270	市政アンケートにおける牧歌舞伎を知っている割合はやや減少したが、地元公演の来場者数は同程度で推移している。
		牧歌舞伎を知っている割合	%	34.9	36.7	35.2				
8	文化施設指定管理事業	文化会館利用件数	件	751	1,003	0	115,189	115,699	72,327	令和6年度より、文化会館が休館になったため、あくとプラザの利用件数が増加した。
		あくとプラザ利用件数	件	247	222	336				
8	文化施設指定管理事業	文化施設利用者の満足度	%	80	80	63				
15	美術館講座等開催事業	参加者に対する市民の割合	%	80	63	42	96	46	64	郷土や美術への理解を深めてもらい、美術鑑賞の楽しみ方や美術館の魅力を知ってもらった。
		満足を感じた人の割合（アンケート回答より）	%	100	93.8	76.0				

（3）基本方針の取組状況

① 特に実績をあげている取組（計画初年度(令和4年度)以降の取組状況）

・美術館と連携し、市民が芸術に触れる機会を確保します。 （吉澤記念美術館において、東京国立博物館から国重文指定のエラスムス立像や天明鋳物の燈籠をはじめとする作品の貸与を受ける特別企画展を開催し、本市の豊かな文化芸術と歴史に触れる機会を創出した。） ・貴重な文化資源である天明鋳物、牧歌舞伎、菜蟲譜等を積極的に活用することにより、地域の活性化につなげます。 （天明鋳物は、令和5年に地域団体商標登録、令和6年に生産用具及び製品の国重文指定が実現し、地域活性化につなげる新たな契機となった。） ・文化芸術施設の改修及び設備の更新等を計画的に行い、適切な管理・運営に努めます。 （民間活力を活かしたDBO方式による文化会館リニューアル事業に着手した。）	・佐野市文化協会や公益財団法人佐野市文化振興事業団等との連携を図り、文化の担い手となる人づくりを進めます。 （文化協会は、自立化と若年層の加入促進の取組への支援が引き続き必要である。） ・貴重な文化資源である天明鋳物、牧歌舞伎、菜蟲譜等を積極的に活用することにより、地域の活性化につなげます。 （天明鋳物の認知度向上のために、PR活動を継続するとともに、外部の意見を積極的に取り入れ、新商品開発を進める。）
--	--

（4）令和6年度行政経営方針の取組状況

① 令和6年度行政経営方針

・本市ならではの「天明鋳物」、「牧歌舞伎」、「菜蟲譜」等の文化資源をより多くの市民が郷土の財産として誇りを持てるよう、紹介などの取組を進める。 ・利用者に安全・安心で快適な環境を提供するため、文化施設の適切な維持管理に努めるとともに、PFI法に準じたDBO方式による文化会館の大規模改修は、事業者の業務進捗について適切な監理監督を行う。 ・佐野市文化協会、公益財団法人佐野市民文化振興事業団のほか、市内の各種団体と連携し、より多くの市民が文化芸術に親しむ機会を充実させる。 ・地域団体商標として登録された「天明鋳物」の認知度向上のため、鋳物事業者や佐野市天明鋳物振興協議会と連携し、各種展示会への出展や新商品開発等の検討を進めるほか、産業、観光やスポーツ面での連携、活用を進める。 ・子どもの頃から良質なものに触れ、文化芸術に親しむ大人に育つよう、アーティストが学校を訪問する「アウトリーチ事業」を有効活用する。 ・吉澤記念美術館の収蔵作品の画像化を順次進め、デジタルコンテンツとして新たな魅力発信を進める。	・牧歌舞伎地元公演会（10月13日開催、観覧者約600人） ・DBO方式による文化会館リニューアル事業の実施 ・市民文化祭（前期6部門・後期9部門）、両毛五市美術展（12月4日～8日開催、入場者数468名）の開催 ・天明鋳物のまちづくりとして、美術館の「丸山瓦全と佐野のお宝保護作戦」展と連携し、若手鋳物師によるワークショップや作品展示を実施した。また、市天明鋳物振興協議会では、都内での展示商談会に出展するほか、新商品の試作を行った。 ・子どもふれあい文化芸術事業1校14回実施 ・吉澤記念美術館収蔵作品21点を、県の事業を活用しデジタル化した。
---	---

2. 課題と次年度（令和8年度）の取組

（1）課題＜環境変化や関係者の意見、要望等を踏まえて＞

【令和7年度以降にも引き継がれる課題】	（2）課題に対する今年度（令和7年度）内の取組状況、予定	（3）次年度（令和8年度）の取組（案）
① 若者が文化活動全般に触れる機会の提供及び次世代の担い手育成 ② 天明鋳物の継承のための取組 ③ 美術館等文化施設の来館者数増のための取組 ④ 吉澤記念美術館の収蔵作品のデジタル化 ⑤ 天明鋳物関連の作品、資料の保管や飽和状態になりつつある美術館収蔵庫を補完する施設や場所の検討 ⑥ 文化会館リニューアル事業に係る新たな運用方針の検討	① 子どもふれあい文化芸術事業10校13回実施 ② 佐野市天明鋳物振興協議会を中心に、市内でのイベント開催や都内での展示商談会出展など天明鋳物の認知度向上のための取組や、販路開拓・商品開発などの取組を行う。 ③ 吉澤記念美術館で国重文指定 伊藤若冲「菜蟲譜」を2週間程度公開し集客を図る。 ④ 県の事業と連携して、引き続き吉澤記念美術館収蔵作品のデジタル化をすすめる。また、作品ポジフィルム of デジタル化もすすめる。 ⑤ 保管展示活用施設について庁内横断的に協議の場を設け検討を行う。 ⑥ 利用料金や運用方法等を整理し、例規整備を行う。	① プロのアーティストが学校訪問する「子どもふれあい文化芸術事業」を有効活用するため、小学校や義務教育学校への周知の仕方を工夫して活用増を図る。また、文化協会の事務効率化と若年層加入促進のための取組について支援する。 ② 市天明鋳物振興協議会を核とした新たな販路開拓や消費者ニーズに合わせた商品開発などの取組や、鋳物を活用した文化の振興のため、茶会などによる鋳物文化の発信を行う。 ③ 吉澤記念美術館で、不定期で公開していた「菜蟲譜」を毎年公開できるよう調整を行い、定例的な公開による集客を図る。 ④ 吉澤記念美術館の作品ポジフィルムのデジタル化をすすめる。 ⑤ 天明鋳物関連の作品、資料の保管や飽和状態になりつつある美術館収蔵庫を補完する施設や場所の検討を行う。 ⑥ 令和7年度条例改正に則り、令和8年4月からの予約受付業務開始に向けた調整を行うとともに、令和9年4月のリニューアルオープンに向けた事業の進捗管理を行う。